

とくしま創生人材教育プログラム  
令和5年度（後期）単位互換授業科目一覧

No.	授業科目名	開設学科等	担当教員 (代表者)	受講形態	単位数	開講時期	開講形態 (対面、遠隔、 オンデマンド等の別)	募集人数	備考
地域学習・実習科目									
1	キャリア形成実践	四国大学全学共通教育センター	フエネリー・マーク	講義・演習	2	後期・金・第3時限	対面	3～5人	シラバス：1ページ
2	タイバシティ・キャリアデザイン	四国大学全学共通教育センター	加渡 いづみ	講義・演習	2	後期・金・第3時限	対面	3～5人	シラバス：5ページ
3	地域未来探求	四国大学全学共通教育センター	高橋 啓子	講義	2	後期・金・2	対面	3～5人	シラバス：7ページ
4	災害と防災	四国大学全学共通教育センター	加渡 いづみ	講義・演習	2	後期・金・2	対面	3～5人	シラバス：11ページ
基礎力育成共通科目									
5	情報科学入門	徳島大学教養教育院	松本 和幸	講義	2	後期・水・3～4	対面	人数制限あり	シラバス：15ページ
6	情報科学入門	徳島大学教養教育院	金西 計英	講義	2	後期・金・1～2	対面	人数制限あり	シラバス：19ページ
7	データサイエンスへの誘い	徳島大学教養教育院	石田 基広	講義	2	後期・月・3～4	オンライン	5人	シラバス：23ページ
8	データサイエンスへの誘い	徳島大学教養教育院	大藪 進喜	講義	2	後期・火・1～2	対面	5人	シラバス：25ページ
基礎力育成科目 テーマ1 情報処理（データサイエンス）									
9	情報処理基礎論	徳島大学総合科学部	豊田 哲也	講義	2	後期・火・5～6	対面 (オンデマンド でも実施)	人数制限あり	シラバス：29ページ
10	アプリケーション開発演習	徳島大学理工学部	寺田 賢治	講義・演習	2	後期・集中	対面	人数制限あり	シラバス：33ページ
基礎力育成科目 テーマ2 マネジメント（プロジェクト管理）									
11	商品企画・開発論	徳島大学生物資源産業学部	森松 文毅	講義	2	後期・火・7～10	対面 (一部オンデマンド)	人数制限あり	シラバス：35ページ
12	世界の中の日本経済	四国大学全学共通教育センター	臼井 正樹	講義	2	後期・木・第1時限	対面	3～5人	シラバス：39ページ
13	租税法	四国大学経営情報学部	水口 勝夫	講義	2	後期・木・4時限	対面	3～5人	シラバス：41ページ
基礎力育成科目 テーマ3 デザイン・コミュニケーション									
14	デザイン表現演習Ⅱ（デザイン表現におけるテクノロジー）	徳島大学総合科学部	佐原 理	講義	2	後期・金・5～6	対面	3人	シラバス：43ページ
資格取得サポート科目									
15	情報社会論	徳島文理大学人間生活学部	松村 豊大	講義	2	後期・火・1講時	対面	20人	シラバス：45ページ
16	会計学Ⅱ	徳島文理大学総合政策学部	齊藤 敦	講義	2	後期・金・3講時	対面	5人程度	シラバス：51ページ

○授業時間

徳島大学 1,2時限：8:40～10:10、3,4時限：10:25～11:55、5,6時限：12:50～14:20、7,8時限：14:35～16:05、9,10時限：16:20～17:50、11,12時限：18:00～19:30、13,14時限：19:40～21:10  
 四国大学 第1時限：9:00～10:30、第2時限：10:40～12:10、第3時限：13:00～14:30、第4時限：14:40～16:10、第5時限：16:20～17:50、第6時限：18:00～19:30、第7時限：19:40～21:10  
 徳島文理大学 1講時：9:00～10:30、2講時：10:40～12:10、3講時：13:00～14:30、4講時：14:40～16:10、5講時：16:20～17:50

## シラバス参照

講義名	キャリア形成実践		
(副題)	1年		
開講責任部署	全学共通教育センター（大学）	代表ナンバリングコード	CFU20303-
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	3時限
科目分類名	全学共通科目（選択）		
対象学科	大学全学部		
対象年次	1		

## 担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ フェネリー マーク	文学部国際文化学科
非常勤講師	日開野 博	全学共通教育センター

概略	<p>地域社会での体験や実践活動を通して様々な科目でキャリア形成について学習してきたであろう就業力の基礎的事項を想起し、主体性や責任感を培い、社会性や倫理観を涵養するとともに、社会の課題についてディスカッション・グループワーク等を通して問題解決能力を育み、学生が自らの将来を生き抜いていく力を育む。特に、自らの夢や目標を設定し、その実現のための課題を明確化して行動につなげることを確認するとともに、地域社会の一人として自らの人生や生き方を問い、エンパワメントできる力を養成する。地域社会におけるボランティア実践活動（フィールドワーク）そして振り返りプレゼンテーションが必修となります。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「四国大学の就業力」の内、①「使命感・責任感・倫理観」、②「確かな人生観・社会観」、③「チームワーク力」、④「社会貢献力」重要性を理解し、自己のキャリアデザインを具体的に述べることができる。</li> <li>社会的・職業的な自立を意識し、夢の実現に向けて深く考え説明することができる。</li> <li>夢の実現に向けて、自己の課題解決を計画的に立案し、実践することができる。</li> <li>社会の一員としてボランティア（V）活動体験とおして、協働と共創と実践力を身に付けることができる。</li> </ol>
授業計画詳細 各回ごとのテーマと内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>【テーマ】「キャリア形成実践導入」 【内容】キャリア形成入門からキャリア形成実践へ（フェネリー・日開野） 【予習】自分の将来のキャリアについて事前に考えその職業に必要な知識・技能調べておくこと（90分） 【復習】講義内容を踏まえ、「自分のキャリア形成」についての考えをまとめておくこと（90分）</li> <li>【テーマ】「夢の明確化」 【内容】私のしたいことは何かを考える。（日開野） 【予習】「キャリア入門」で学習したことを再確認して、現在の自分について再考する。（90分） 【復習】授業を通して、現在の自分の状況を「キャリア形成」の視点から再考するとともに、今後、授業で学習体験する「ボランティア」についての関連性を模索してみる。（90分）</li> <li>【テーマ】「多様な社会活動の実践」 【内容】社会貢献活動へのいざない、ボランティア活動の現状と意義（日開野） 【予習】ボランティア活動実態と活動ルールを考える・調べる。（45分） 【復習】授業を通して、現時点での自分の夢（将来の目標、将来設計）について、現実的かつ具体的に考察すると同時に、その中で「ボランティア活動」という地域や社会貢献の視点を関連付けて考えてみる。（135分）</li> <li>【テーマ】「福祉ボランティア活動」 【内容】パラスポーツと福祉V活動の心得と要支援者への活動のルール（日開野） 【予習】現実的で具体的な目標のために、大学を卒業するまでに実行すべき行動について、再考するとともに、授業の中で実践される「ボランティア活動」が、自分の「キャリア形成」においてどういう位置づけになるのか考えておく。（45分） 【復習】授業を通して、大学時代に到達する目標を将来のプランニングするとともに、次回から学習・体験する「ボランティア活動」が、今後の「キャリア形成」にとってどういう意味を持つのか、また、自分と社会との間でどんな有機的な関連性をもたらすのかについて予測してみる。（135分）</li> <li>【テーマ】「災害V活動へのプレリユード」 【内容】自らの活動に向けての活動情報の収集とアクセス、活動心得の準備と活動分野と活動先への事前アプローチ（日開野） 【予習】災害ボランティア活動の実態を調べておくこと（90分） 【復習】それぞれ災害ボランティア活動の実態からそれぞれの意義を理解する。（90分）</li> </ol>

	<p>6【テーマ】「ボランティア活動の歴史・理念・NPO・NGO論」  【内容】日本のボランティア活動の歴史と理念の変遷、NPO法とその活動、NGO活動の現状等（NPO・NGO・福祉とボランティア活動のルール・マナー・活動実態）（日開野）  【予習】ボランティア活動の歴史・NPO・NGO活動の歴史を調べ学習しておく。（90分）  【復習】ボランティア活動の歴史と実態から活動の理念・ルール・マナーを検証し理解する。（90分）</p> <p>7【テーマ】「私のキャリア実践」  【内容】NGO・地域協力隊での実践と私の人生（外部講師）  【予習】地域おこし協力隊について調べておく。（90分）  【復習】地域おこし協力隊活動について基本的な部分を理解しまとめる。（90分）</p> <p>8【テーマ】「海外のボランティア活動①」外部講師  【内容】海外でのボランティア活動とマナー・心得（フェネリー・外部講師）  【予習】ウェブサイトや文献等で海外のボランティア活動・NGO活動について基礎知識を得ておくこと。（90分）  【復習】海外でのボランティア活動について基本的な部分を理解しまとめる。（90分）</p> <p>9【テーマ】「海外のボランティア活動②」外部講師  【内容】NGO活動の現状と実践「外部講師」（フェネリー・日開野・外部講師）  【予習】ウェブサイト等NICEやNGO活動について基礎知識を得ておくこと（90分）  【復習】ワークキャンプ等海外で行うボランティア活動について基本的な部分を理解し学ぶ。（90分）</p> <p>10【テーマ】「活動実践—V活動を幅広く自分で探してみよう！」  【内容】アクティブラーニング（情報収集とアセスメント）、活動の中へのアプローチ—自ら活動先と事前交渉と事前見学後、活動マナーの確認とV実践（フェネリー・日開野）  【予習】ボランティア活動情報を県・市町村NPOボランティアセンター等含め調べておく。（90分）  【復習】ボランティア活動情報収集のアプローチやアクセスマナーを深く学び整理する。（90分）</p> <p>11【テーマ】「活動実践—V活動を探検しよう！活動の中へ飛び込んでみる」  【内容】アクティブラーニング（自らの活動現場でのV実践から学んだものを振り返り、次回に向けての、自らの課題を解決するための自己点検）（フェネリー・日開野）  【予習】ボランティア活動実践から活動上の自らの実践課題を整理しておく。（90分）  【復習】ボランティア活動実践を通し、活動先の活動理念を整理し理念の理解を深める。（90分）</p> <p>12【テーマ】「活動実践—V活動を探求しよう！」  【内容】アクティブラーニング（活動の中で深めてみる。実践を振り返り、次回への活動内容の方針を立て活動に入る）（フェネリー・日開野）  【予習】ボランティア活動実践から自分の新たな課題や新たな発見を整理しておく。（90分）  【復習】ボランティア活動先や団体からそれぞれの団体の活動の意味を自分なりに考える。（90分）</p> <p>13【テーマ】「活動実践—実践の振り返ってみよう！」  【内容】アクティブラーニング（自らの活動を振り返り次回へ展望を目指したプレゼンへの整理作業）（フェネリー・日開野）  【予習】活動体験から何を感じ、何を学んだかを整理してプレゼンの準備をしておく。（90分）  【復習】自分のプレゼンと他者のプレゼンの内容も含み、ボランティア活動体験から何を学んだかを深く整理し考える。（90分）</p> <p>14【テーマ】「ボランティア活動と理念の検証—実践発表」  【内容】アクティブラーニング（リフレクションと学生プレゼンテーション）レポート・フォーラム（フェネリー・日開野）  【予習】自分が参加した活動や団体についてそれぞれの活動理念をウェブサイトなどで検証し予備知識を得ておくこと（90分）  【復習】体験した活動の意味とNGO・NPO・ボランティア活動等の活動理念から社会貢献活動を検証しボランティア活動論を深く学ぶ。（90分）</p> <p>15【テーマ】「ボランティア活動等サービスラーニングから自分未来への検証」  【内容】アクティブラーニング（リフレクションと学生レポート・フォーラム）（フェネリー・日開野）  【予習】これまでの講義や活動から自らの実践前の生き方と実践後の生き方を考えておく（135分）  【復習】社会貢献活動等ボランティア体験から市民社会の一人として自己を見つめ将来人生について深く考えをまとめる。（45分）</p>
成績評価方法	<p>①授業内レポート20%、②授業外実践レポート40%、③自己表現&amp;プレゼンテーション力40%</p> <p>レポートやプレゼンに対するフィードバックは15回目の授業「リフレクション活動」を通して学生に伝えます。</p>
再試の有無	無
事前学習 事後学習	<p>1. シラバスをよく読み、当日の授業内容をよく理解して、必要な準備をして臨むこと。  2. 特に前半の4回の授業では沢山の文献を読んで自分の夢について考えておくこと。  3. 後半はボランティア体験実践を行うので「どのような分野のボランティア活動を行いたいのか、事前に調べて情報収集をしておくこと。  4. また、活動現場を事前見学したり、事前体験したりして関わっておくことが望ましい。  5. この科目は、卒業後社会に出て、主体的・積極的に一人の社会人として自立し、自己の得意領域でもって、社会貢献していく力を拾得することが目的です。従って、受け身の授業ではなく、積極的、能動的に課題に対して、自らが取り組んでいくことを求めます。従って、事前学習を十分にこななければ、何をどうするのか理解できず、何の満足も得られないまま終わってしまうことにもなりかねません。そういうことのないように、毎回授業内容を理解し、必要な準備をきちんとして授業に臨んでください。  6. 討論したこと、書物から感動したフレーズ、気になったこと等何でもポートフォリオに蓄積していくことを忘れず実践しましょう。</p>
テキスト	その都度、教科書は指定せずテーマごとに、参考図書を紹介をしたり、プリントを配布したりしながら実施する。従って、プリントをファイルできるクリアブックの準備と、レポート用紙の準備をしておくことが望ましい。
参考文献	<p>1. 雨宮孝子・他著『ボランティア・NOP』（中央法規出版、2004年）  2. 木原孝久著『豊かな人生とボランティア』（笹川平和財団、1993年）  3. 渡辺美樹著「15歳から始まる人生の設計ノート」成美堂出版  4. 菊池一文監修「働く」の教科書 15人の先輩とやりたい仕事を見つけよう！中央法規出版  5. 広瀬恒子著「読書ボランティア」一声社</p>

	6. 厚生労働省企画「中学校・高校におけるキャリア教育実践テキスト」実業之日本社 7. ベネッセコーポレーション「MY CAREER NOTE NAVIGATION」 8. DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」NHK
オフィスアワー(授業相談)	フェネリー：月曜日の昼休み12:10-13:00 L606 日開野：授業の前後
学生へのメッセージ	授業展開は、可能な限りのアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生の主体的活動を重視した、体験的学外授業を考慮する。そのためには体験等を通してディスカッションやプレゼンテーション等を加え、受講者同士の交流活動をも含めた授業とする。

[ウインドウを閉じる](#)



## シラバス参照

講義名	ダイバーシティ・キャリアデザイン		
(副題)	1年		
開講責任部署	全学共通教育センター（大学）	代表ナンバリングコード	CFU10306-
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	3時限
科目分類名	全学共通科目（選択）		
対象学科	大学全学部		
対象年次	1		

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授（実務家教員：元ファイナンシャルプランナー）	◎ 加渡 いづみ	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科
指定なし	中岡 泰子	生活科学部人間生活科学科
指定なし	西岡 かおり	生活科学部人間生活科学科

概略	<p>ダイバシティを考える上では、女性活躍推進、ジェンダーギャップの解消、国籍や宗教の違い、年齢や生活スタイルの違い、障がいの有無などの多様性を「個性」として受け止め、一人ひとりが充実してきることが基本となる。加えて、特に企業経営においては、エシカル消費の高まりなど消費者の価値観やニーズの多様化が進み、消費者の権利と利益を守る理念を経営の中心に置く「消費者志向経営（サステナブル経営）」の姿勢が求められる。</p> <p>そこで本講義では、働く組織内の多様性、お客様対応を考える上での多様性、地域社会における多様性を理解し、学生・社会人双方において社会生活に不可欠な視点を養う。さらに、女性活躍推進のためのルールや仕組みを理解し、具体的にキャリアデザインを描くためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。</p> <p>潜在的な（これまでの家庭教育や学校教育の家庭で固定化した）意識や「当たり前」を見直すため、活発なアクティブ・ラーニングを導入した授業を展開する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や企業が求める人材像について説明することができる。</li> <li>・社会における多様な価値観を理解し、企業人としてサステナブル経営の重要性について説明することができる。</li> <li>・ダイバーシティの視点からキャリアデザインを描くことができる。</li> </ul>
授業計画詳細 各回ごとのテーマと内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンスと導入（加渡） 授業の進め方の説明ならびに授業目的の理解 【予習90分】ダイバーシティとは何かを調べておく。 【復習90分】ダイバーシティの意味について振り返り理解する。</li> <li>ダイバーシティとは（加渡） ダイバーシティ&amp;インクルージョンの基礎知識～なぜ多様性の包摂が必要なのか？ 【予習90分】フォルトラインについて調べておく。 【復習90分】ダイバーシティ&amp;インクルージョンがなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるよう整理する。</li> <li>それって「当たり前」ですか？～固定化した意識に気づく～（中岡） 育つ過程で知らず知らずのうちにきざみこまれ固定観念となっている「アンコンシャス（無意識の）バイアス」に気づく。 また、自分自身のジェンダーと向き合い、自分らしさとは何かについて考える。 【予習90分】家庭や社会生活の中にある固定化した意識について考えておく。 【復習90分】ジェンダーが個人の選択に及ぼす影響について、自分なりに考えを整理しておく。</li> <li>女性活躍とジェンダーギャップの現実（中岡） 日本におけるジェンダー・ギャップ（男女格差）の現状を理解し、女性活躍推進における課題や今後の取り組みについて考える。 【予習90分】ジェンダー・ギャップ指数の資料を読んでおく。 【復習90分】ディスカッションを通じて感じたこと、考えたことを整理し、まとめておく。</li> <li>（ゲストスピーチ1）企業や社会はこんな「あなた」を求めています！（加渡・中岡） 企業関係者、地域団体、経済団体、行政等からゲストスピーチをお招きして、社会が求める人材像について考える。 【予習90分】もし自分が経営者だったら、こんな人材を採用したい！という人物像について考えておく。</li> </ol>

	<p>【復習90分】ゲストスピーチを聞いた感想をまとめる。</p> <p>6. (ディスカッション1) 若手社会人との本音ディスカッション～学生時代には想像できなかったこと(加渡・中岡) 若手社会人をお招きし、先輩の生き方を知り、大学時代に何をすればよいのかについて考える。 【予習90分】社会に出る前に自分が見つけて置きたい力を具体的にまとめておく。 【復習90分】ディスカッションを通して、短大・大学時代に見つけたい力について再確認する。</p> <p>7. 消費者ニーズの多様性とサステナブル経営(加渡) 消費者の志向の変化や消費者志向経営について学ぶ 【予習90分】「消費者志向経営」について調べておく。 【復習90分】「消費者志向経営」が必要な理由を整理する。</p> <p>8. SDGsは誰のためにあるのか?～誰ひとり取り残さないためのエシカル消費(加渡) エシカル消費とダイバーシティの関係を考える 【予習90分】エシカル消費とダイバーシティは関連があるのか?を考えておく。 【復習90分】エシカル消費の理念や考え方の柱とダイバーシティとの関連を整理しておく。</p> <p>9. SDGsを自分ごととして考えるためにゲームで未来を設計する(加渡) ゲーム形式でSDGsを達成するために何が必要なのかを考える 【予習90分】SDGsの中でじぶんがもっとも関心が高いゴールについて内容やターゲットを調べておく。 【復習90分】ゲームを通して感じた課題を整理する。</p> <p>10. (ゲストスピーチ2) 進む働き方改革～自分を磨くのは「自分」(加渡・中岡) 企業関係者、地域団体、経済団体、行政等からゲストスピーチをお招きして、これからの働き方について考える。 【予習90分】「多様性を射明かした組織づくり」とはどのようなことかについて調べておく。 【復習90分】ゲストスピーチを聞いた感想をまとめる。</p> <p>11. (ディスカッション2) 若手社会人との本音ディスカッション～私が目指す働き方とロールモデル(加渡・中岡) 若手社会人をお招きし、先輩の働き方から、大学での学びがキャリアにどう生かされているかを考える。 【予習90分】「自分はこんな働き方をしたい」「こんな社会人になりたい」というイメージを文字として表現する。 【復習90分】ディスカッションを通して感じたことをまとめる。</p> <p>12. 男性と女性の身体的・心理的特性を理解する(西岡) 男女の身体の機能や特徴、思考傾向の違いについて概説する。 【予習90分】性差:セックスとジェンダーについて考えておく。 【復習90分】性差による身体的・心理的特性とその活かし方を整理しておく。</p> <p>13. これが私のキャリアデザインだ!～実際に自分のキャリアデザインを描いてみよう(加渡・中岡) 自分はどのような生き方、働き方をしたいのか、「私」のキャリアデザインを描く。 【予習90分】自分のキャリアデザインを文字として表現する準備をする。 【復習90分】自分の描いたキャリアデザインを、ダイバーシティ&amp;インクルージョンの視点から見直してみる。</p> <p>14. キャリアデザイン博覧会～それぞれのキャリアデザインを語ろう(加渡・中岡) 「私」のキャリアデザインを発表する。 【予習90分】ダイバーシティについて学んだことを活かして描いた自分のキャリアデザインについて、発表できる準備をする。 【復習90分】他の受講生の発表から得た気づきを参考に、自分のキャリアデザインを見直してみる。</p> <p>15. 講義の振り返りとまとめ～グループディスカッション(加渡・中岡) 講義を振り返り、レポートにまとめる。 【予習90分】講義を振り返り、重要だと感じた点や新たに学んだ点をまとめておく。 【復習90分】ダイバーシティ&amp;インクルージョンについて、友人と意見交換をすることで新しい考え方に触れてみる。</p>
成績評価方法	各教員からのミニレポートと最終レポートの提出物(100%)により評価する。 大学・短大で評価基準が異なる。 レポート等に関するフィードバックは次回の授業内で解説する。 成績評価システム(絶対的相対評価)による評価を行う場合がある。
再試の有無	有
事前学習 事後学習	事前学習;授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること 事後学習;資料整理および講義ノートをまとめておくこと
テキスト	特になし
テキストISBN番号	各回のテーマに応じて適宜紹介する。
参考文献	各回のテーマに応じて適宜紹介する。
オフィスアワー(授業相談)	加渡いづみ(T512研究室)月曜日 13:00~15:00 中岡 泰子(C312研究室)水曜日 12:15~12:55 西岡かおり(A706研究室)水曜日 13:00~14:30
学生へのメッセージ	本授業では、企業経営者(人事採用、社員教育担当者も含む)のゲストスピーチや、学生と比較的年齢の近い若手社員とのワークショップやロールモデルカフェを実施します。それらを通して、社会が自分たちに何を求めているのか、「組織の一員として働き、企業を支える」とは実際にどのようなことなのかを、皆さんと考え語り合うことで視野を広げる契機としたい。徳島県内では、なかなか話を聞く機会がない企業からゲストをお招きする予定ですので、積極的に履修ください。

## シラバス参照

講義名	地域未来探求		
(副題)	1年		
開講責任部署	全学共通教育センター（大学）	代表ナンバリングコード	CFU10507-
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	2時限
科目分類名	全学共通科目（選択）		
対象学科	大学全学部		
対象年次	1		

## 担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 高橋 啓子	生活科学部健康栄養学科
教授（実務家教員：元高校教員）	太田 剛	文学部書道文化学科
指定なし	鎌田 智英実	生活科学部健康栄養学科
指定なし	村上 亜弥子	生活科学部健康栄養学科
指定なし	西岡 かおり	生活科学部人間生活科学科
指定なし	長尾 多美子	短期大学部人間健康科介護福祉専攻
教授（実務家教員：元介護施設従事者）	小倉 和也	短期大学部人間健康科介護福祉専攻
教授（実務家教員：元幼稚園教員）	中村 真理子	短期大学部幼児教育保育科
指定なし	川内 由子	短期大学部音楽科

概略	<p>私たちは心身共に豊かな生活を送ることを望んでいます。しかし、私たちの生活を取り巻く環境には不安要素が多くあります。本授業は徳島県の地域を志向する科目として未来において”豊かな生活を送るために”をテーマに、食生活や医療、子育て、高齢者対策など、私たちの暮らしに関わる現状を学びます。さらに、こころを豊かにする芸術・健康作りのためのスポーツについても学修します。課題解決能力を培い、輝かしい未来生活を創造しましょう。担当教員によって、マナビコースやレスポンスを利用して授業を行います。アクティブ・ラーニングとして、フィールドワークで集めた資料についてグループで話し合う授業もあります。また、実務家教員の担当回では、それぞれの経験を活かした実践的な内容を含みます。本科目は地域教育プログラムとして全学共通科目・地域連携科目に位置づけられ、社会人基礎力、専門的知識・技術の活用力につながります。</p>
到達目標	<p>①地域における私たちの暮らしを取り巻く環境を理解することができる。          ②学習内容を理解し、生活に活用することができるとともに、未来の地域づくりに参画し、その魅力を語るすることができる。</p>
授業計画詳細 各回ごとのテーマと内容	<p>1-1. オリエンテーション（全員）30分程度          「地域未来探求」科目について担当者や講義方法等について説明します。          オリエンテーションの後は講義を行います。          1-2. とくしまの「おいしい!!」をみつけよう（高橋啓子）          徳島県の特産品や食文化について知り、その特徴や問題点について考える。          【予習】自分の住んでいる地域の特産物や郷土料理など食文化について調べておく。(90分)          【復習】授業内容について振り返りシートを元に、理解を深める。(90分)</p> <p>2. 県民の食生活check!（鎌田智英実）          徳島県民の生活習慣と健康状態との関わりについて知り、その特徴や問題点について考える。          【予習】徳島県民の生活習慣や健康状態の現状について調べておく。(とくしま健康づくりネットなどを参考にしておいてください) (90分)          【復習】授業内容について振り返りシートを元に、理解を深める。(90分)</p> <p>3. わたしの健康を守るために！（鎌田智英実）          徳島県の食事や生活状況、健康状況を理解した上で、生活の質を向上させるための方策を考える。          【予習】前回の授業で考えた自身の健康づくり対策について見直しておく。(90分)          【復習】授業内容について振り返りシートを元に、理解を深める。(90分)</p> <p>4. 徳島県民の健康（長尾多美子）</p>



	<p>徳島県HIV感染症の動向などについて考える。  【予習】HIV感染症がそのような疾患なのか、学習しておいてください。(90分)  【復習】授業で学んだ内容の振り返りをしておいてください。(90分)</p> <p>5. 県民を守る医療 (長尾多美子)  徳島県の結核の動向などについて考える。  【予習】結核がどのような疾患なのか、学習しておいてください。(90分)  【復習】授業で学んだ内容の振り返りをしておいてください。(90分)</p> <p>6. 徳島県の医療 (学校保健の立場から) (西岡かおり)  学校保健統計からみる子供の現代的な課題と徳島県の子供の現状  【予習】現在の子供たちの健康課題について考えておく(90分)  【復習】本時の到達目標を確認する(90分)</p> <p>7. 徳島県の子ども・子育て支援の現状と課題 ―福祉の観点から― (中村真理子)  「福祉」の意味や徳島県の子ども・子育て支援の現状と課題を理解した上で、徳島県内で実践されている子ども・子育て家庭への支援活動内容を知る。  【予習】テキストの該当ページを必ず読んでおいてください。(90分)  【復習】テキストや振り返りシートを通して、どのような内容であったかを整理しておいてください。(90分)</p> <p>8. 徳島県の保育所・幼稚園・認定こども園で行われている子ども・子育て支援 (中村真理子)  徳島県内の保育所・幼稚園・認定こども園で実施されている子育て支援や保護者支援について内容を知る。子育て支援実践者と保護者の願いや思いを知り、自分の子育て期に望む支援を考える。  【予習】前回の授業で学んだ子ども・子育て支援の現状について復習しておく。(90分)  【復習】授業内容について振り返りシートを元に、理解を深める。(90分)</p> <p>9. 徳島で元気に暮らすために必要なことを考えよう (小倉和也)  高齢者の疑似体験を通して、高齢者のイメージを膨らませ、暮らしの特徴を知り、介護とはどのようなことができるかを知ることができる。  【予習】高齢者の暮らしや生活についてインターネットなどで事前に調べてみましょう。(90分)  【復習】疑似体験を振り返り、どのような支援が必要かをまとめておきましょう。(90分)</p> <p>10. インターネットで地域の介護に関する社会資源を探してみよう (小倉和也)  徳島の地域に根ざした介護に関する社会資源を調べ、年齢を重ねながら、住み慣れた地域で生活続けるために必要な情報の収集ができる。  【予習】高齢者の介護施設及び介護サービスの必要性等の情報を事前に調べておきましょう。(90分)  【復習】徳島での高齢者サービスの実際について調べたことをまとめておきましょう。(90分)</p> <p>11. 住み慣れた地域で生活を送るために、必要な介護サービスを考えよう (小倉和也)  調べた介護に関する社会資源の情報を発表する。他者の意見を聴くことで私たちが高齢になっても住み慣れた地域で暮らすために必要な介護サービスの発想ができる。  【予習】未来に向けて障害を持ちつつも住みよい地域づくりに何が必要かを考えておきましょう。(90分)  【復習】徳島で必要な介護サービスについて自分の意見を整理しておきましょう。(90分)</p> <p>12. しばにゃそんそん！郷土の音楽 (川内由子)  諸外国の音楽に触れ、日本の音楽の特徴を知る。また、阿波踊りの歴史的変容から、徳島県の郷土芸能である阿波踊りに対する理解を深める。  【予習】わらべうたや阿波踊りについて調べておくこと(90分)  【復習】授業を振り返り要点をまとめておくこと(90分)</p> <p>13. 阿波踊り体操を通じた地域づくり (村上亜弥子)  短時間で場所を取らず、全身を動かすことのできる体操として開発された「阿波踊り体操」。制作の背景を知り、阿波踊りが身体に与える効果と合わせて、阿波踊り体操への理解を深めていく。  【予習】阿波踊り体操とはどのようなものか調べておく(90分)  【復習】授業内容について振り返りシートを元に、理解を深める。(90分)</p> <p>14. 徳島の書道文化を考える (太田剛)  徳島は古代から豊かに栄えた場所で、書道文化的にも優れたものを遺していることを知り、その良さに気付くと共に、今後の生活の中でそれらをどのように活用していけるか考える。  【事前課題】各自が地域で発見した筆書きの看板の写真を1枚撮影して、そのデータをmanabacourseのレポート欄に投稿する。(90分)  【復習】今後の生活の中で書道を活用方法を考える。(90分)</p> <p>15. わたしの未来生活を創造しよう (全員)  5つの分野について学修した内容から最も興味を持ったテーマを取り上げ、その分野でどのように地域に参画し、貢献できるか、自分の未来生活においてどのように活かせるか考える。  【予習】これまでの学習内容を振り返り興味のある内容について復習しておく。(90分)  【復習】授業中に行ったディスカッション等を参考に課題解決のための提案および地域への参画について意見をまとめてレポートを作成、提出する。(90分)</p>
成績評価方法	<p>評価基準は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講態度 (30%)</li> <li>2 単元ごとの課題 (振り返りシート等) (20%)</li> <li>3 5つの分野から課題を抽出し、「私の未来生活を創造しよう」または「地域を豊かにするための提言」等をテーマとしたレポートを提出 (50%)</li> </ol> <p>上記、3つにより総合的に評価する。  なお、振り返りシートは教員のチェック後返却する。期末試験としてのレポートの返却はしない。  大学と短大では配点等を変えるので評価の基準が異なる。  最終評価は成績評価システムによる評価を行う。</p>
再試の有無	有
事前学習 事後学習	事前学習：各分野において統計データなど資料があれば、配布するので目を通しておくこと。 事後学習：課題と対策についてまとめる。
テキスト	教科書は使用せず、授業ごとに資料を配布
参考文献	統計データ等の資料
オフィスアワー(授業相談)	太田：金曜日昼休み (12：10～13：00) S401 小倉：木曜日昼休み (12：10～13：00) C207 鎌田：月曜日昼休み (12：20～12：50) A1006 川内：水曜日昼休み (12：10～13：00) D302

	高橋：火曜日5限（16：20～17：35）A1012 長尾：金曜日昼休み（12：10～13：00）T107 西岡：金曜日昼休み（12：10～13：00）A706 中村：水曜日昼休み（12：20～12：50）U556 村上：金曜日昼休み（12：15～12：50）E105
学生へのメッセージ	私たちを取り巻く生活環境や社会状況を知り、未来における心豊かな生活とは何か、魅力ある地域とは何かを一緒に考えましょう。

[ウインドウを閉じる](#)



## シラバス参照

講義名	災害と防災		
(副題)	1年		
開講責任部署	全学共通教育センター(大学)	代表ナンバリングコード	CFU10509-
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	2時限
科目分類名	全学共通科目(選択)		
対象学科	大学全学部		
対象年次	1		

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授(実務家教員:元ファイナンシャルプランナー)	◎ 加渡 いづみ	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科
指定なし	未定 教員	指定なし
指定なし	松尾 恭子	看護学部看護学科
指定なし	萩原 八郎	経営情報学部経営情報学科
指定なし	戸川 聡	経営情報学部メディア情報学科
教授(実務家教員:元NTT職員)	長沼 次郎	経営情報学部メディア情報学科
非常勤講師	中野 晋	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科
非常勤講師	西山 賢一	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科
非常勤講師	武藤 裕則	短期大学部ビジネス・コミュニケーション科
非常勤講師	日開野 博	全学共通教育センター

概略	<p>地震や風水害などの災害に備えるためには、自助・共助・公助の役割を理解した上で、一人一人が正しい知識を持ち行動することが求められます。本講義は地域志向科目として、徳島県の地域性や特性を考慮した上で、災害のメカニズムから医療・看護、ボランティアや地域経営、公的支援制度や情報の利活用に関する幅広い視点から災害と防災を学ぶことで、災害時に自分の安全を守ると同時に、社会の防災力を高めるための意識と知識と技術を身につけることを目的としています。</p> <p>本講義は、テーマごとに担当教員が異なるオムニバス形式の授業スタイルとなります。実務家教員の担当回では、それぞれの分野における経験を活かして専門的で実践的な内容を含みます。また、授業内容に応じてマナビコースやレスポンスを利用します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 洪水災害、土砂災害、地震・津波災害の発生のメカニズムについて、説明することができる。</li> <li>2. 災害現場での医療・看護活動について、基本となる重要点を述べるができる。</li> <li>3. 災害時の共助・協働について、ボランティア活動や地域コミュニティ活動の面から、その重要性を述べることができる。</li> <li>4. 災害時に自分の身を守るための備えについて、現在の生活環境下で具体的に用意・実行することができる。</li> <li>5. 被災時の情報の利活用に関する方法を知り、実行することができる。</li> </ol>
授業計画詳細 各回ごとのテーマと内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(加渡いづみ)             <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の概要、進め方、成績評価等について説明します。</li> <li>災害と防災を学ぶ上で、基礎知識や最近のトピックスをについて説明します。</li> <li>【予習】南海・東南海地震についての政府発表や報道を読んでおくこと(90分)</li> <li>【復習】授業の概要を理解しておくこと(90分)</li> </ul> </li> <li>2. 土砂災害(西山賢一)             <ul style="list-style-type: none"> <li>土砂災害のメカニズムと被害事例について学びます。</li> <li>【予習】「徳島県総合地図提供システム」ホームページにアクセスし、自宅周辺に土砂災害危険箇所がないか、調べておくこと(90分)</li> <li>【復習】土砂災害の危険性について整理しておくこと(90分)</li> </ul> </li> <li>3. 洪水災害(武藤裕則)</li> </ol>

	<p>洪水災害のメカニズムと被害事例について学びます。  【予習】過去に日本で起こった水害について調べておく。身近な人の経験談や体験談があれば聞いておく（90分）  【復習】洪水災害について学んだことを整理しておくこと（90分）</p> <p>4. 地震・津波災害（中野晋）  地震・津波災害のメカニズムと被害事例について学びます。  【予習】気象庁のHPで「地震発生のしくみ」と「津波発生と伝播のしくみ」を学習しておくこと（90分）  <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html</a>  <a href="http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/generation.html">http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/generation.html</a>  【復習】主な地震被害と津波被害について整理しておくこと（90分）</p> <p>5. 災害時における身体の変化と対応（看護学科教員）  大災害に被災した時に起こる身体の変化及び対応について、事例の説明やシミュレーションなどを通して災害への備えを学びます。  【予習】災害に関する新聞記事などから身体の問題について記載されたものを収集整理しましょう（90分）  【復習】災害時における身体の変化と対応について、学んだことを整理しましょう（90分）</p> <p>6. 災害時における心の変化と対応（看護学科教員）  大災害に被災した時に起こる心の変化及び対応について、事例の説明やシミュレーションなどを通して災害への備えを学びます。  【予習】災害に関する新聞記事などから身体の問題について記載されたものを収集整理しましょう（90分）  【復習】災害時における心の変化と対応について、学んだことを整理しましょう（90分）</p> <p>7. 急性期の看護医療（松尾恭子）  トリアージの基本と方法、シミュレーションについて説明します。  【予習】「トリアージ」の意味を事前に調べておく（90分）  【予習】「トリアージ」について、学んだことを整理しておくこと（90分）</p> <p>8. 災害とボランティア活動（日開野博）  ボランティア活動の歴史と理念、災害時でのボランティア活動の原則等について説明します。  【予習】災害時のボランティア活動について新聞記事などを読んでおくこと（90分）  【復習】災害とボランティア活動について、学んだことを整理しておくこと（90分）</p> <p>9. 災害時の地域経営（萩原八郎）  災害時に備えて、地域の自然環境や地方自治体の役割と地域力の重要性を考察します。  【予習】日本の市町村の数を調べておくこと（90分）  【復習】災害時の地域経営について、学んだことを整理しておくこと（90分）</p> <p>10. 家庭の防災（加渡いづみ）  各家庭や個人における具体的な防災の行動と備えについて考えます。  【予習】我が家における防災の備えについて、非常食や道具の状況、連絡網などを家族で話し合っておく（90分）  【復習】家庭の防災について、学んだことを整理しておく（90分）</p> <p>11. 災害と保険（加渡いづみ）  地震保険を中心とした災害に備えるための保険知識について学びます。  【予習】地震保険と火災保険の違いを調べておく（90分）  【復習】災害と保険について、学んだことを整理しておく（90分）</p> <p>12. 災害時の支援制度（加渡いづみ）  被災時の公的支援制度や金融機関の取り組みを知りましょう。  【予習】罹災証明書とは何かについて調べておく（90分）  【復習】災害時の支援制度について、学んだことを整理しておく（90分）</p> <p>13. 防災と情報①（長沼次郎）  ネット上に公開されている防災サイトや、四国大学周辺の防災対策情報について説明します。  【予習】ネット上に公開されている防災サイトを確認しておくこと（90分）  【復習】ネット上に公開されている防災サイトについて、学んだことを整理しておくこと（90分）</p> <p>14. 防災と情報②（戸川聡）  災害遭遇時における避難情報収集と活用や、ICTの観点から見た安否確認について説明します。  【予習】災害遭遇時にどのように情報収集するか考えておくこと（90分）  【復習】災害遭遇時における情報収集について、学んだことを整理しておくこと（90分）</p> <p>15. まとめ（加渡いづみ）  授業全体を振り返りながら、災害と防災の知識の重要点をまとめます。  【予習】これまでの授業内容をよく復習しておく（90分）  【復習】理解できなかった部分をよく調べておく（90分）</p>
成績評価方法	授業態度（20%）、期末の筆記試験（80%）により評価を行います。試験は、講義各回の内容から均等に出題された問題を作成し、採点します。 成績評価システム（絶対的相対評価）により評価を行います。 大学と短大では、成績評価の配分が異なります。 課題に関するフィードバックは最終授業で行います。
再試の有無	有
事前学習 事後学習	1. シラバスを十分読み、当日の授業内容の柱を理解しておきましょう。 2. 防災について、日頃からマスコミ報道等から福祉や介護の話題に関心をもち考えてみましょう。 3. 授業で学んだ項目を基に、私たちの暮らしやライフスタイル等（衣・食・住・余暇・社会活動等）を点検し、災害時の備えができていくかどうかを考えてみましょう。 4. 授業で学んだことを復習しながら、友人や家族に伝えてみてください。
テキスト	特に指定せず、授業時に必要な資料を配布します。
参考文献	日本防災士機構「防災士教本」（2013年）
オフィスアワー(授業相談)	萩原八郎：水曜3限（13：00～14：30）P503 戸川聡：月曜3限（13：00～14：30）U412 加渡いづみ：月曜（15：00～17：00）T512 松尾恭子：金曜日の昼休み（12：10～12：50）A509 長沼次郎：金曜日の昼休み（12：10～12：50）U405 中野晋：授業の前後

	西山賢一：授業の前後 武藤裕則：授業の前後 日開野博：授業の前後
学生へのメッセージ	いつ、どのような形で発生するかわからない災害に対して、防災・減災の正しい知識を学ぶことにより、一人一人がまず自分の身を守る行動をとることができるようになりましょう。そして、地域社会の一員として、地域の防災力を高めるために何が必要なのか、あるいは自分には何ができるのかを一緒に考えてまいりましょう。

[ウインドウを閉じる](#)



2023 年度 後期 教養教育院(2015年度以前の入学生は共通教育)		日英区分: 日本語
情報科学入門 Introduction to Information Science		
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
0022002	基礎科目群・情報科学	昼間
■ ナンバリング		
INFO1010JLAS		
■ 選必区分		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
講義	2	水3~4
■ 担当教員(ローマ字表記)		
松本 和幸 [Kazuyuki Matsumoto]		
■ 対象学生		
理工(知能A)1年		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

情報化社会において、コンピュータの扱い方をはじめとした情報関連技術を習得し、積極的に情報の活用を行える能力「情報リテラシー」が必要となっている。特に、情報処理技術者のなかでも、データサイエンティストとよばれる技術者の需要が高まっている。データサイエンティストには、情報を効率的に収集し、収集した大量のデータを処理するのに必要な技術やツールを使いこなす能力、収集したデータを統計的に解析したり分析結果を可視化する技術などが要求される。本授業では、情報処理技術者、特にデータサイエンティストに必要な技術についての基礎知識の獲得と、それらの技術を身につける際に必須となる基礎的な情報リテラシー習得を目的とする。なお、この授業の内容は数理・データサイエンス教育教科拠点コンソーシアム(<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>)認定のモデルカリキュラムに沿っています。

#### ■ 授業の概要

情報技術の基礎、データサイエンスの基礎、人工知能の基礎、および関連知識を講義し、コンピュータの実習を行う。加えて、基礎的なコンピュータの操作能力として、Word・Excel・PowerPointのツールを使用して、文書作成、表計算、およびプレゼンテーションの基礎技術を習得する。オンデマンド形式の講義資料の公開と、小テスト、レポート課題による理解度の確認、自己紹介のプレゼンテーションによる発表技術の向上を目的とした発表会を行う。また、Pythonによる簡単なプログラミングを通してAIおよびデータサイエンスの基礎技術を習得する。

#### ■ キーワード

情報リテラシー、インターネット、電子メール、データサイエンス、人工知能、プログラミング、文書作成、表計算、プレゼンテーション

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

- ・現代社会において必須の情報技術である、ネットワーク・パーソナルコンピュータの基礎的な利用・応用について説明できる。
- ・情報セキュリティや情報倫理について説明できる。
- ・データサイエンス、AI技術に関する用語や最近のトピックについて説明できる。
- ・文書作成、グラフ作成、プレゼンテーションができる。
- ・データサイエンスおよびAIの簡単なプログラミングができる。

#### ■ 授業の計画



1. ガイダンス, 情報セキュリティ, 情報倫理
2. 情報のとらえ方, コンピュータの仕組みと特徴
3. ソフトウェアの仕組みとプログラミング
4. 情報通信の仕組み
5. アカデミックライティング・プレゼンテーション (Word, PowerPoint)
6. データ集計の基礎 (Excelで実習)
7. 表計算・マクロ (Excelで実習)
8. 統計的な処理 (Excel, Pythonで実習)
9. アルゴリズム (Pythonで実習)
10. ビッグデータ (Pythonで実習)
11. 機械学習・深層学習の基礎 (Pythonで実習)
12. AI・データサイエンスの基礎
13. AI構築 (Pythonで実習)
14. 発表会1
15. 発表会2
16. 予備日

#### 教科書

教科書1	ISBN	電子書籍 (ISBN不明)				
	書名	<a href="#">情報科学入門～統計・データサイエンス・プログラミング</a>				
	著者名		出版社	技術評論社	出版年	技術評論社
	備考	電子書籍				
備考	授業の際に指示します					

#### 参考書

備考	適宜, 参考資料を提示する.
----	----------------

#### 教科書・参考書に関する補足情報

講義資料 (講義スライド, 動画リンク) は, 適宜配布する.

#### 成績評価方法・基準

課題レポートおよび小テスト (70%), 授業への取り組み状況 (30%) をもとに総合的に評価する.  
小テスト実施回, 課題レポート出題回, 発表会は発表者のプレゼンに対する評価を記入したシートを毎回提出してもらいます.  
授業への取り組みは, 主に出席率で評価します. また, manabaスレッド, Teams, メールでの質問状況, 発表会の参加態度なども考慮します.

#### 再試験の有無

無

#### 受講者へのメッセージ

コンピュータ初心者のためのツールとして, 情報機器の使い方の基本を, 対面講義, 状況に応じたオンデマンド講義, オンライン実習 (質疑応答) により学習する. 実習の内容は講義資料 (またはテキスト) が中心ですが, レポート課題には応用的な内容も含まれますので, できるだけ予習・復習をお願いします. 実習はBYODスタイルですので, 各自PCを持参してください (オンライン実習の場合は, Webカメラとマイクを備えたPCとネットワーク環境を準備してください).

#### WEBページ

無

#### 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません.

#### 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません.

#### オフィシアワー

#### ■ オンラインオフィスアワー

受け付ける

#### ■ 実務経験

#### ■ 備考

この授業では、大学のパーソナル・コンピューター(PC)だけでなく、皆さんが所有するPC(BYOD形式)も使用します。詳細については、初回授業で説明します。

#### ■ 自学自習(予習・復習)のアドバイス

課題レポートは時間をかけて丁寧に仕上げてください。

授業を受ける際には、90分の授業時間ごとに1時間の予習と復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要です。

#### ■ 準備学修に必要な時間の目安等

大学の講義は、1単位を修得するにあたり、教員が行う授業時間に加え、学生が予習や復習などの授業時間外に学修する時間と合わせて、45時間の学修を必要とします。授業中に提示した参考書やWebページなどの資料を事前によく読んで理解しておくように心がけてください。



2023 年度 後期 教養教育院(2015年度以前の入学生は共通教育)		日英区分: 日本語
情報科学入門 Introduction to Information Science		
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
0022005	基礎科目群・情報科学	昼間
■ ナンバリング		
INFO1010JLAS		
■ 選必区分		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
講義	2	金1~2
■ 担当教員(ローマ字表記)		
金西 計英 [Kazuhide Kanenishi]		
■ 対象学生		
理工(応化A)1年		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

Society 5.0の社会では、論理的思考能力や規範的判断力に基づき柔軟に対応できる人材育成が急がれている。文系理系を問わず、初年次の大学生にとって情報リテラシーや数理科学に関する知識、プログラミングのスキルが求められる。本講義では、高度情報化社会において求められる基礎的な知識や能力、AIやデータサイエンスに関する知識やプログラミングスキルを、教養教育課程のうちに確実に身に付けることを目的とする。なお、この授業の内容は数理・データサイエンス教育教科拠点コンソーシアム(<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>)認定のモデルカリキュラムに沿っています。

#### ■ 授業の概要

対面授業の上に、eラーニングコンテンツを活用しデータサイエンスならびに情報処理に関する知識、スキルを身につける。前半では情報リテラシーを理解するための基礎知識とその関連技術を学修する。後半ではAI、データサイエンス、プログラミングスキルに関する知識やスキルを習得する。なお、コロナ感染の状況により、授業形態が対面やオンライン形式等、柔軟に対応することになる。

#### ■ キーワード

情報リテラシー、データサイエンス

#### ■ 先行/科目

#### ■ 関連/科目

#### ■ 到達目標

1. 数理・データサイエンスの必要性を説明できる
2. 地域を含む実社会での数理・データサイエンスの事例を例示できる
3. 代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を説明できる

#### ■ 授業の計画

1. ガイダンス、コミュニケーションツール
2. 情報の概要
3. 計算機の仕組み
4. ソフトウェアの仕組み
5. データベースの活用
6. インターネットの仕組みと活用

7. 情報セキュリティ
8. 情報化社会(データの法規と倫理)
9. 社会におけるデータ・AI活用
10. データの要約
11. データの関係性
12. データの可視化
13. 確率・統計の基礎
14. モデリング
15. プログラミング
16. 定期試験

#### 教科書

教科書1	ISBN	電子書籍 (ISBN不明)				
	書名	<a href="#">情報科学入門～統計・データサイエンス・AI</a>				
	著者名	石田 基広, 大藪 進喜 (著, 監修)	出版社	技術評論社	出版年	2021
	備考	この本は電子書籍です。徳島大学生協から購入できます。				
備考	授業時に必要に応じて、資料等の配布をおこなう。また、上記以外の教科書を使用する場合は、ガイダンス時に説明する。					

#### 参考書

参考書1	ISBN	9784121006240				
	書名	<a href="#">理科系の作文技術</a>				
	著者名	木下 是雄	出版社	中央公論社	出版年	中央公論社
	備考					

#### 教科書・参考書に関する補足情報

本年度は上記の「情報科学入門」共通の教科書を使用します。上記教科書は電子書籍となっています。生協等から購入することができます。

#### 成績評価方法・基準

課題の状況、試験、授業への取り組み状況から総合的に成績判断をおこなう。授業内で課すことのある各種の課題を総計したものを5割、最終試験を5割として、成績判断をおこなう予定である。

#### 再試験の有無

無

#### 受講者へのメッセージ

高校で科目「情報」を履修していることを前提としています。講義は全て積み重ねが大事なので欠席すると追いつくための自習が必要。学部1年生のみ対象の講義。

#### WEBページ

なし

#### 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### オフィスアワー

水曜日の6限目(13:35～14:05)

#### オンラインオフィスアワー

#### ■ 実務経験

#### ■ 備考

この授業では、大学のパーソナル・コンピューター(PC)だけでなく、皆さんが所有するPCも使用します。詳細については、初回授業で説明します。

#### ■ 自学自習(予習・復習)のアドバイス

授業時に説明します

#### ■ 準備学修に必要な時間の目安等

大学の講義は、1単位を修得するにあたり、教員が行う授業時間に加え、学生が予習や復習などの授業時間外に学修する時間と合わせて、45時間の学修を必要とします。



2023 年度 後期 教養教育院(2015年度以前の入学生は共通教育)		日英区分: 日本語
データサイエンスへの誘い Introduction of Data Science		
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
0020804	創成科学科目群・イノベーション科目	昼間
■ ナンバリング		
INNV1250JLAS		
■ 選必修区分		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
メディア授業	2	月3~4
■ 担当教員(ローマ字表記)		
石田 基広 [Motohiro Ishida]		
■ 対象学生		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

文系理系を問わず、すべての学生に対して、データを読み解く能力を向上させることが求められている。データに関わる理論や技術を扱う学問領域をデータサイエンスという。この授業を通して、データサイエンスの基礎となるコンピュータサイエンスや統計学、データ分析技法などについて、基礎知識と応用力を身につけることを目標とする。

#### ■ 授業の概要

データとはなにか、またデータの種類などについての形式的な考察を出発点とし、データをコンピューターで精査あるいは整形するための技術、さらにはデータの概要を数値やグラフで要約する方法、そしてデータから新たな知見あるいは予測を引き出すための理論と手法を、講義を中心都市、部分的には演習を通して学ぶ。

#### ■ キーワード

データサイエンス、統計学、コンピュータサイエンス、AI

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

データを整理し、解釈あるいは予測するのに必要な基礎知識(データサイエンスの基礎)を身につける。また、実社会における活用事例、さらには応用可能性について認識を深める。

#### ■ 授業の計画

- 1 ガイダンス・データサイエンスとはなにか
- 2 現代社会におけるデータサイエンスの活用事例
- 3 現実に遭遇するデータの諸相
- 4 データ処理のためのプログラミング技法
- 5 データの要約
- 6 データを可視化するさまざまな技法
- 7 データと確率
- 8 データからの推論
- 9 複数のデータを比較する
- 10 ミスリーディングな統計的推論の罠



- 11 統計的モデリング
- 12 統計的学習とはなにか
- 13 機械学習のさまざまな技法
- 14 分析と推論のためのツール
- 15 データのセキュリティについて
- 16 期末試験

#### 教科書

#### 参考書

参考書1	ISBN	電子書籍 (ISBN不明)			
	書名	<a href="#">情報科学入門～統計・データサイエンス・プログラミング</a>			
	著者名		出版社	技術評論社(電子書籍)	出版年
	備考				

#### 教科書・参考書に関する補足情報

別の科目であるが、各学部学科で必修の「情報科学入門」で指定された教科書を、この授業でも参照することがある。

#### 成績評価方法・基準

毎回の小テスト(50%)、期末試験(50%)

#### 再試験の有無

無し

#### 受講者へのメッセージ

演習においてコンピュータを使用することがある。使用する場合は、あらかじめ予告する。

なお、この授業の内容は、文部科学省「数理・データサイエンス教育教科拠点」コンソーシアム(<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>)認定のモデルカリキュラムに沿っています。

#### WEBページ

#### 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### オフィスアワー

木曜日 16:00~18:00

#### オンラインオフィスアワー

#### 実務経験

#### 備考

この授業の内容は、文部科学省「数理・データサイエンス教育教科拠点」コンソーシアム(<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>)認定のモデルカリキュラムに沿っています。

#### 自学自習(予習・復習)のアドバイス

#### 準備学修に必要な時間の目安等

大学の講義は、1単位を修得するにあたり、教員が行う授業時間に加え、学生が予習や復習などの授業時間外に学修する時間と合わせて、45時間の学修を必要とします。

2023 年度 後期 教養教育院(2015年度以前の入学生は共通教育)		日英区分: 日本語
データサイエンスへの誘い Introduction of Data Science		
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
0020807	創成科学科目群・イノベーション科目	昼間
■ ナンバリング		
INNV1250JLAS		
■ 選必区分		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
メディア授業	2	火1~2
■ 担当教員(ローマ字表記)		
大藪 進喜 [OOYABU SHINKI]		
■ 対象学生		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

文系理系を問わず、すべての学生に対して、データを読み解く能力を向上させることが求められている。データに関わる理論や技術を扱う学問領域をデータサイエンスという。また、ビッグデータの蓄積によって、さまざま分野でAI技術の応用が進んでいる。この授業を通して、データサイエンスの基礎となるコンピュータサイエンスや統計学、データ分析技法について基礎知識と応用力を身につけることを目標とする。あわせて、AI活用の基礎となっている深層学習の技術とその展望について理解を深める。なお、この授業の内容は数理・データサイエンス教育教科拠点コンソーシアム(<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>)認定のモデルカリキュラムに沿っています。

#### ■ 授業の概要

コンピュータ、統計学、データ分析、そしてデータサイエンスとその応用の初歩の授業とおして、コンピュータで使われている技術、コンピュータアルゴリズム、そして近未来のコンピュータ事情にふれる。特に実社会で応用できるような知識を身につける。また、授業中にはmanabaを用いた課題に参加しながら授業を進めるので、コンピュータもしくはスマートフォンを必携である。

#### ■ キーワード

データサイエンス、統計学、コンピュータアルゴリズム、AI、ビッグデータ

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

データサイエンスが何であるか、その実際の応用可能性、近未来の社会がどうなっていくのかを理解する。

#### ■ 授業の計画

- 1 ガイダンス・データサイエンスとはなにか
- 2 現代社会におけるデータサイエンスの活用事例
- 3 AIの歴史と社会
- 4 ビッグデータとデータエンジニアリング
- 5 現実に遭遇するデータの諸相
- 6 データ処理のためのプログラミング技法
- 7 データの要約
- 8 データを可視化するさまざまな技法

- 9 データと確率、その数理
- 10 データ分析の設計
- 11 統計的モデリング
- 12 機械学習のさまざまな技法
- 13 深層学習の基礎と展望
- 14 分析と推論のためのツール
- 15 AIの構築と運用

#### 教科書

教科書1	ISBN	電子書籍 (ISBN不明)				
	書名	情報科学入門～統計・データサイエンス・プログラミング(電子書籍)				
	著者名		出版社	技術評論社	出版年	
	備考					
備考	なし					

#### 参考書

備考	なし
----	----

#### 教科書・参考書に関する補足情報

情報科学入門とおなじテキストである。また、授業時に追加の資料を配付する。

#### 成績評価方法・基準

授業への取り組み状況(60%)、レポート(40%)

#### 再試験の有無

なし

#### 受講者へのメッセージ

各自のコンピュータを使用する。使用する日は、予告するので、忘れないように。

#### WEBページ

<https://manaba.lms.tokushima-u.ac.jp/>

#### 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### オフィスアワー

毎週火曜日-木曜日 13:00-15:00 総合科学部3号館1階1N02

#### オンラインオフィスアワー

#### 実務経験

#### 備考

なし

#### 自学自習(予習・復習)のアドバイス

コンピュータを使った予習・復習を行う。各自コンピュータには慣れておくように。

#### 準備学修に必要な時間の目安等

大学の講義は、1単位を修得するにあたり、教員が行う授業時間に加え、学生が予習や復習などの授業時間外に学修する時間と合わせて、45時間の学修を必要とします。



2023 年度 後期 総合科学部 社会総合科学科		日英区分: 日本語
情報処理基礎論 Introducton to Computing		後期
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
1003303	学部共通科目	昼間
■ ナンバリング		
INFO2000JIAS		
■ 選必区分		
選択必修		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
講義	2	火5~6
■ 担当教員(ローマ字表記)		
豊田 哲也, 石田 基広, 佐藤 充宏, 田口 太郎, 矢部 拓也 [Tetsuya Toyoda, Motohiro Ishida, Mitsuhiro Satoh, Taro Taguchi, Takuya Yabe]		
■ 対象学生		
全1年		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

DX(デジタル化)の進む現代社会において、データとその分析に基づいて意思決定を行う能力が必須となっている。また、さまざまな応用が急速に進むAIについても、その基礎を理解し、能動的に利用できることが求められている。

諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違ってもデータ処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。定型的な日常業務はもちろん、重要な意志決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。

総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。

#### ■ 授業の概要

授業は導入部分、本編部分、実践部分の3つからなる。本編は1つのテーマごとに講義1回と実習1回をセットとし、全部で6つのセットから構成される。実践編では、各自が学んだ知識や技能をもとに実際のデータ分析をおこない、課題の発見と解決にデータを活用する方法を体験する。授業教材の提示、自習に役立つ情報提供、課題の提出はすべてLMSを用いておこなう。毎回授業では、内容をふり返り要点をまとめると同時に、質問やコメントの記入を求める。なお、この授業は担当教員がチームで授業の開発と運営にあたっており、教育改善のモデルケースとして位置づけられていることから、受講生諸君の積極的な取り組みが期待される。

#### ■ キーワード

数理・データサイエンス・AI、統計学、データリテラシー、論理的思考力、社会調査士

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

No.	到達目標	コアカリ
1	統計学の基礎的な考え方を理解し、科学的なデータの見方や考え方を修得している。	
2	Excelの機能を活用したデータの整理や操作法を修得し、実践的に情報を運用する能力がある。	

- 3 総合科学部の専門課程で扱うテーマとそれに即したデータ分析法について関心を深める。

#### ■ 授業の計画

回	大項目	中項目	内容
1	ガイダンス	講義	データ駆動型社会について
2	データの表現(1)	〃	質的データと量的データ, 静的比率と動的比率
3	データの表現(2)	実習	データの入力, 比率の計算, 表の作成
4	データ分析設計(1)	講義	さまざまなグラフ表現の特性と読み方
5	データ分析設計(2)	実習	データ加工とグラフの作成, 学術的なグラフの書式
6	データ観察(1)	講義	データベースの形式, 単純集計とクロス集計
7	データ観察(2)	実習	質的データと因果関係, 媒介関係とコントロール変数
8	データ観察(3)	講義	度数分布表の作成, 累積相対度数
9	データ観察(4)	実習	平均値, 中央値, 最頻値の求め方
10	データの科学(1)	講義	分散, 標準偏差, 四分位値, 尖度, 歪度
11	データの科学(2)	実習	母集団と標本, 確率, 正規分布, データの標準化
12	データの科学(3)	講義	散布図と相関係数, 因果関係と疑似相関
13	データの科学(4)	実習	回帰分析と最小二乗法, 決定係数, 残差
14	データ解析実践(1)	〃	データ分析に基づく課題発見・課題解決
15	データ解析実践(2)	〃	データ分析に基づく課題発見・課題解決
16	授業のまとめ		統計学的思考法

#### ■ 教科書

#### ■ 参考書

#### ■ 教科書・参考書に関する補足情報

各回の授業時にプリントを配布する。教材はこの授業のために開発されたオリジナルな内容である。参考資料は授業時に指示する。

#### ■ 成績評価方法・基準

課題の評価(70%)に授業への取組(30%)を加味して評価する。

#### ■ 再試験の有無

おこなわない

#### ■ 受講者へのメッセージ

受講者は前提としてWindows操作の基礎知識をすでに獲得していることが求められる(1年次前期に共通教育「情報科学入門」を受講済みであることが前提である)。授業は講義と実習を組み合わせをおこない、各回の内容に応じた課題を与える。なお、利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある。初回授業ではガイダンスとクラス分けをおこなうので、開講前の9月末に掲示板等で指定された教室に集合すること。

#### ■ WEBページ

#### ■ 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### ■ 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

#### ■ オフィスアワー

豊田 哲也:木曜 12:00-13:00

矢部 拓也:希望者は、随時、メールにてアポを取って下さい。

田口 太郎:適宜。田口へメールにてアポイントを取ってください。

石田 基広:金曜日16時～18時

#### ■ オンラインオフィスアワー

#### ■ 実務経験

#### ■ 備考

1.地域創生コースで取得可能な資格である社会調査士のカリキュラムのうち、【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目(必修)に該当する。

2.地域創生コースで取得可能な資格であるGIS学術士資格のカリキュラムのうち、【A】GISに関連する情報処理を中心とする科目(必修)に該当する。

#### ■ 自主学習(予習・復習)のアドバイス

授業は講義と実習を隔週で実施し、2週セットで1つのテーマを扱う。毎週必ず内容を予習・復習し、与えられた課題は締切までに提出すること。また、eラーニングシステムを活用して授業教材を配信しているので、欠席したときや予習・復習のときに役立ててほしい。

#### ■ 準備学修に必要な時間の目安等

大学の講義は、1単位を修得するにあたり、教員が行う授業時間に加え、学生が予習や復習などの授業時間外に学修する時間と合わせて、45時間の学修を必要とします。





2023 年度 後期 理工学部 理工学科		日英区分: 日本語
アプリケーション開発演習 Computer Application Exercise		3年・後期
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
610024D	理工学	昼間
■ ナンバリング		
SCTE3500JSCE		
■ 選必区分		
選択		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
演習	2	集中
■ 担当教員(ローマ字表記)		
寺田 賢治 [Kenji Terada]		
■ 対象学生		
2021年度以降入学生・全コース(昼間)		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

徳島で将来性のある企業で活躍できる職に就いたり、まちづくりや地域の開発を担う技術者やリーダーとなるため、地域を創生する能力と素養を修得する。

#### ■ 授業の概要

プログラミング能力を身に着けるため、課題を設定し、調査、結果整理、考察、発表を行う。

#### ■ キーワード

情報工学, 知能工学, 能動的学修, プログラミング能力, プレゼンテーション

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

1. プログラミングの基礎技術が説明できる。
2. 能動的に学修ができる。
3. 自分の考えを明確かつ論理的に人に伝達できる。

#### ■ 授業の計画

1. ガイダンス
2. プログラミング基礎(1)
3. プログラミング基礎(2)
4. プログラミング基礎(3)
5. プログラミング基礎(4)
6. 課題設定
7. プログラミング応用(1)
8. プログラミング応用(2)
9. プログラミング応用(3)

10. プログラミング応用(4)
11. 中間報告
12. プログラミング応用(5)
13. プログラミング応用(6)
14. プログラミング応用(7)
15. まとめ

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ 成績評価方法・基準

演習態度, レポート, プレゼンテーションを総合して評価する。  
詳細は本演習最初のガイダンスで説明する。

■ 再試験の有無

無

■ 受講者へのメッセージ

■ WEBページ

■ 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

■ 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

■ オフィスアワー

月, 水曜日 15:00~17:00

■ オンラインオフィスアワー

■ 実務経験

■ 備考

■ JABEE合格

■ 学習教育目標との関連

■ 教免科目

■ 授業の使用言語

■ 準備学修に必要な時間の目安等

2023 年度 後期 生物資源産業学部 生物資源産業学科		日英区分: 日本語
商品企画・開発論 Product development and planning		1年・後期
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
7100005	学科共通科目	
■ ナンバリング		
■ 選必区分		
必修		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
講義	2	火7~10
■ 担当教員(ローマ字表記)		
森松 文毅, 中澤 慶久, 武間 亮香, 北岡 和義 [MORIMATSU FUMIKI, NAKAZAWA YOSHIHISA, BUMA RIYOUKO, Kazuyoshi Kitaoka]		
■ 対象学生		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

企業活動の原点は優れた商品企画・開発による顧客満足への達成にある。この講義では、前半は経営的・営業的な観点に立脚した商品企画および開発に関する基礎知識を理解するとともに、実務経験を有する教員の実施例を基に企画・開発への意欲向上を目的とする。また、後半部分では地域資源を活用した商品企画・開発をグループワークで取り組み、商品企画書として纏めて発表することで、価値創造プロセス(商品提案力)を構築・マネージメントできるスキルを修得する。

#### ■ 授業の概要

本講義では、前半は、マーケティングの基本理論、経営戦略の考え方、商品企画、商品開発(商品として販売するまでのプロセスと収益性を上げるための工夫)、経営管理を学習する。後半は、地元特産品を活かした商品企画書と事業計画をとりまとめ、計画書を作成して発表する。

#### ■ キーワード

商品企画, 商品開発, 生物資源, 六次産業化, 食品

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

1. 商品企画, 商品開発に関する基本的な実施手順と用語を理解する。
2. 実際の商品開発事例を基に、課題や社会情勢に関する討議や課題抽出が実施する。
3. 演習課題に沿ってグループで市場調査, ターゲティング分析, ペルソナ設定などをディスカッションを交えて実施する。
4. グループごとにプレゼンテーションシートを作成し、発表するとともに、相互評価を実施する。

#### ■ 授業の計画

1. オリエンテーション、商品の企画・開発に関する総論
2. 商品開発の種類とプロセス, 外部環境, 戦略策定
3. 市場調査とデザイン志向, 顧客セグメンテーションとターゲティング
4. コンセプトマーケティング, 視覚化/事業分析
5. 技術講演1「商品企画と開発の実例」(レポート課題)
6. 技術講演2「商品企画と開発の実例」(レポート課題)

7. 創造志向, 商品開発マーケティング, モノづくりとコトづくり
8. ネーミング, デザイン, パッケージング, 中間試験(45分間)
9. グループワークオリエンテーション, グループ編成, ブレイクアウト, JAMBOARD説明, 開発課題紹介
10. ブレイクアウト演習: 既存商品の調査, 開発商品の環境分析(PEST分析)
11. ブレイクアウト演習: 市場セグメンテーションのペルソナ設定, ニーズ分析(共感マップと未来シナリオ)
12. ブレイクアウト演習: プレゼンシート説明, 商品コンセプト, KBFの設定, ポジショニングマップ, AIDMA, 商品ネーミング
13. ブレイクアウト演習: プレゼンシートの作成
14. 【プレゼンテーション, 前半発表1~12チーム, 各7分】, 開発商品の発表
15. 【プレゼンテーション, 後半発表13~20チーム, 各7分】, 開発商品の発表、全チームの講評、Formsにて投票
16. Forms結果のフィードバック

#### 教科書

備考	
----	--

#### 参考書

参考書1	ISBN	9784990598464				
	書名	<a href="#">商品開発学：商品はこうしてつくる</a>				
	著者名	小塩稲之編著	出版社	日本販路コーディネータ協会出版局	出版年	2014
	備考					
参考書2	ISBN	9784495527617				
	書名	<a href="#">成功する新商品開発プロジェクトのすすめ方</a>				
	著者名	和田憲一郎著	出版社	同文館出版	出版年	2014
	備考					
参考書3	ISBN	9784820731511				
	書名	<a href="#">事例でわかる実戦商品開発マーケティング戦略</a>				
	著者名	佐藤義典著	出版社	日本能率協会マネジメントセンター	出版年	2018
	備考					
参考書4	ISBN	9784496050107				
	書名	<a href="#">地域の美味しいものづくり：農工商連携・6次産業化による商品開発、販路開拓とその支援</a>				
	著者名	中小企業基盤整備機構編	出版社	同友館	出版年	2013
	備考					

#### 教科書・参考書に関する補足情報

授業中に適宜プリント等を配布します。

#### 成績評価方法・基準

前半(商品開発プロジェクト演習読み替え分)は中間試験(60%)、出席(40%)で評価します。  
 後半(起業体験実習読み替え分)はグループワークおよびプレゼンテーションにて評価します。  
 随時レポート課題があり、加点項目として評価します。

#### 再試験の有無

実施しない

#### 受講者へのメッセージ

Zoomおよびブレイクアウト機能を利用しますので、受講者はPCにて遅刻せず参加してください(スマホでの作業は出来ません)。  
 企業における商品企画、商品開発(主に食品をターゲットに行います)の基本的な方法や用語を理解することは商品企画・開発者を目指す方にとって有益であり、日常の消費生活においても役立ちます。  
 また、新型コロナ禍の中、WEBによるグループワークは今後ますます重要になってきますので、積極的に取り組んでください。

#### WEBページ

教務システムおよびManabaにて連絡します。

■ ■ 学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

■ ■ 学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

■ ■ オフィスアワー

メールにて連絡のこと

■ ■ オンラインオフィスアワー

■ ■ 実務経験

■ ■ 備考



## シラバス参照

講義名	世界の中の日本経済		
(副題)	1年		
開講責任部署	全学共通教育センター（大学）	代表ナンバリングコード	CFU10404-
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	1時限
科目分類名	全学共通科目（選択）		
対象学科	大学全学部		
対象年次	1		

## 担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 臼井 正樹	経営情報学部経営情報学科

概略	<p>日本経済が、世界経済の中でどういう立ち位置にあるのか、様々な角度から考察を深めていく講義です。経済は実は我々の日常生活とは密接に関わる事柄です。しかし、コツがつかめていないと全体像がつかみづらく、なかなか理解しにくい厄介な分野です。そこで、講義では、初学者のこうした莫たる不安感に寄り添いながら、現実起こっている事例を教材として用いて、手触り感のある形では、わかりやすい“生の経済を学ぶ講義”にしたいと思えます。社会に出る前に、経済に関する知識の基本を学ぶという意識で受講をして下さい（ディプロマポリシーの項番4）。</p>
到達目標	<p>新聞の経済記事の意味内容や背景がしっかりと自分の頭で理解できるようになる。          日本経済の立ち位置について、自分の頭で理解し、自分の言葉で語れるようになる          先行きの日本経済がどのような姿になるのか、おぼろげながらも、自らで方向感をイメージできるようになる</p>
授業計画詳細 各回ごとのテーマと内容	<p>1. 経済とは何なのか？・どういうものなのか？・どう理解すればいいのか？          ーなぜ、我々は経済を学ばないといけないのか？          ー学ぶと、何か得があるのか？          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>2. 世界経済の足取りと今後の展望          ー世界経済はこれまでどのように動いてきたのか・今後どう動いていくのか？          ー新興国や中国の台頭はどのような文脈で理解すればいいのか？          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>3. 日本経済の足取りと今後の展望          ー日本経済はこれまでどのように動いてきたのか・今後どう動いていくのか？          ー日本経済の課題は何か？          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>4. 経済はどういうメカニズムで回っているのか？          ー生産・分配・支出という3つの側面を考える          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>5. 生産とは何か？          ー生産はどうやって決まるのだろうか          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>6. 分配とは何なのか？          ー分配とは何なのか。所得の分配はなぜ重要なのだろうか。          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>7. 支出とは何なのか？          ー「経済の動きを決めるのは支出（需要）」という考え方は、どう理解すればいいのか？          ーこの考え方は、どこまでが本場で、どこからが眉唾なのか？          事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)          事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>8. 消費は何で決まってくるのだろうか？          ーなぜ消費が伸び悩むのか</p>



	<p>事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>9. 設備投資とは何なのか？        ー生産力や競争力を高める方策の主要手段ながら、        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>10. 政府支出とは何か？        ー財政赤字の政府が支出できるのはなぜ？        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>11. 輸出とは何か？        ー輸出はなぜ注目されるのか？        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>12. 輸入とは何か？        ー輸入はどう位置付ければいいのか？        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>13. 今後の世界経済Ⅰ        ー脱炭素社会と日本経済        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>14. 今後の世界経済Ⅱ        ーデジタル・トランスメーションと日本経済        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p> <p>15. まとめ        事前学習：テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します(90分)        事後学習：短時間で良いので講義の復習を必ず行いましょう。(90分)</p>
成績評価方法	期末試験100%（考え方の骨格が的確に把握できているかを評価します）
再試の有無	無
事前学習 事後学習	第1回～15回のいずれについても、下記の要領で事前・事後の学習の励行を勧めます。 事前学習：各テーマに応じて、皆さんの理解度を踏まえつつ、その都度、指示します。最低でも90分の時間をかけるようにしましょう。 事後学習：最低でも90分の時間をかけて、講義の復習を必ず行いましょう。
テキスト	教員が作成した資料を講義開始前に配布します。
参考文献	適宜指示します。
オフィスアワー(授業相談)	木曜日の昼休み12：10～13：00 P507
学生へのメッセージ	講義中の私語・スマホは厳禁です（約束を守れない学生には退出を求めます）。 講義は1本のストーリーでつながっているので、途中で休むと講義が理解できなくなります。よく休む方は受講をおすすめしません。

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	租税法		
(副題)	1年		
開講責任部署	経営情報学部経営情報学科	代表ナンバリングコード	MMA30207-
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	4時限
科目分類名	専門選択科目		
対象学科	経営情報学部経営情報学科		
対象年次	1		

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授（実務家教員：元国税局職員）	◎ 水口 勝夫	経営情報学部経営情報学科

概略	<p>税は国民全員が負担すべき「社会の会費」であるとともに、税の知識は将来起業を目指す者や会社経営者にとっては、必ず支払わなければならない「コスト（費用）」に関する知識とも言えます。</p> <p>本講義では、初めて税を学ぶ学生を対象に租税の概要、基本原則及び申告方法（基礎）並びに将来起業等すれば必ず直面する税務行政（調査等）の現場について、実務家の経験に基づいて体系的に理解してもらうことを目的とします。</p> <p>授業は基本的にパワーポイントを利用して講義形式で進めますが、公平な税の集め方を考えてもらったり、授業に関する「確認レポート」の作成を通じた双方向の講義を目指します。</p> <p>なお、前半は、税に関する動画の視聴を適時行うとともに、後半は、外部講師（税理士）による「オムニバス形式」での申告書作成等の実践的な授業を行い、租税全般に対する理解を深めることにします。</p>
到達目標	租税全般にわたる基礎的な知識を身に付け、租税及び税務行政等を体系的に理解できる。
授業計画詳細 各回ごとのテーマと内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス 講義の概要・進め方、成績評価等について説明します。</li> <li>租税 租税の概要を説明後、「公平な税の集め方」等について考えてもらいます。 【予習】わが国の租税の概要について自分で調べてみる（90分） 【復習】講義における疑問点等を調べておく（90分）</li> <li>租税体系、税法の法体系 租税体系及び税の基本原則等について説明します。 【予習】わが国の租税体系、税法の法体系について自分で調べておく（90分） 【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておく（90分）</li> <li>各税の概要（所得税） 所得税の概要について説明します。 【予習】所得税の概要について自分で調べておく（90分） 【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておく（90分）</li> <li>各税の概要（法人税） 法人税の概要について説明します。 【予習】法人税の概要について自分で調べておく（90分） 【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておく（90分）</li> <li>各税の概要（相続税・贈与税） 相続税と贈与税の概要について説明します。 【予習】相続税と贈与税の概要について自分で調べておく（90分） 【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておく（90分）</li> <li>各税の概要（消費税） 消費税の概要について説明します。 【予習】消費税の概要について自分で調べておく（90分） 【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておく（90分）</li> <li>各税の概要（酒税、印紙税及び地方税等） 酒税、印紙税及び地方税等の概要について説明します。 【予習】酒税、印紙税及び地方税等の概要について自分で調べておく（90分） 【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておく（90分）</li> <li>国際課税、税務行政の組織と権限 国際課税と税務行政（税務調査等）の概要について説明します。 【予習】国際課税と税務行政の概要について自分で調べておく（90分）</li> </ol>

	<p>【復習】「確認レポート」の内容等を十分復習しておくこと（90分）</p> <p>10・外部講師（税理士）による講義① 「所得税編（テーマは後日連絡）」について講義します。 （日程等は今後変更の可能性あり） 【予習】各税の大要（所得税）の講義資料等を復習しておくこと（90分） 【復習】講義で分からなかったことを復習しておくこと（90分）</p> <p>11・外部講師（税理士）による講義② 「法人税編（テーマは後日連絡）」について講義します。 （日程等は今後変更の可能性あり） 【予習】各税の大要（法人税）の講義資料等を復習しておくこと（90分） 【復習】講義で分からなかったことを復習しておくこと（90分）</p> <p>12・外部講師（税理士）による講義③ 「相続税・贈与税編（テーマは後日連絡）」について講義します。 （日程等は今後変更の可能性あり） 【予習】各税の大要（相続税・贈与税）の講義資料等を復習しておくこと（90分） 【復習】講義で分からなかったことを復習しておくこと（90分）</p> <p>13・外部講師（税理士）による講義④ 「消費税編（テーマは後日連絡）」について講義します。 （日程等は今後変更の可能性あり） 【予習】各税の大要（消費税）の講義資料を復習しておくこと（90分） 【復習】講義で分からなかったことを復習しておくこと（90分）</p> <p>14・外部講師（税理士）による講義⑤ 「税理士の仕事」について講義します。 （日程等は今後変更の可能性あり） 【予習】「税理士」について自分で調べておくこと（90分） 【復習】講義で新しく知ったこと等を整理しておくこと（90分）</p> <p>15. まとめ 全体を振り返り講義のまとめを行うとともに、理解度を確認するため筆記試験を実施します。</p>
成績評価方法	「確認レポート」（60%）、期末筆記試験（40%）で評価しますので、「確認レポート」は必ず提出してください。
再試の有無	無
事前学習 事後学習	・講義後半で作成してもらう「確認レポート」は、原則としてその講義内で解説します。 ・講義資料及び「確認レポート」（回答）は、講義終了後にマナバ（掲示板）に掲載しますので復習等に活用してください。
テキスト	講義資料（パワーポイント資料）を配布します。
テキストISBN番号	無
参考文献	<p>税務大学校講本 『税法入門（令和5年度）』、『所得税法（令和5年度）』 『法人税法（令和5年度）』、『相続税法（令和5年度）』 『消費税法（令和5年度）』</p> <p>※ いずれも国税庁HPから無料ダウンロード可能</p>
オフィスアワー(授業相談)	木曜日 12:10-12:50 P504研究室
学生へのメッセージ	<p>大学で学ぶ目的の一つは、今まで知らなかった分野の学問を勉強することです。 税金は一生涯（ゆりかごから墓場まで）全てのの人に必要な基礎知識です。 一緒に楽しく税金について学びましょう。</p>

[ウインドウを閉じる](#)

2023 年度 後期 総合科学部 社会総合科学科		日英区分: 日本語
デザイン表現演習Ⅱ (デザイン表現におけるテクノロジー) Design Production Ⅱ		後期
■ 時間割コード	■ 科目分野	■ 昼夜
1047707	コース応用科目	昼間
■ ナンバリング		
ARTS4420JIAS		
■ 選必区分		
選択必修		
■ シラバス用カリキュラム関連		
■ 実務経験のある教員による授業		
■ 授業形態	■ 単位数	■ 曜日・講時
講義	2	金5~6
■ 担当教員(ローマ字表記)		
佐原 理 [Osamu Sahara]		
■ 対象学生		
3年		

#### ■ 授業のタイプ(英語科目)

#### ■ 授業の目的

映像メディアを活用したナレッジマネジメントとデザイン思考を身につける

#### ■ 授業の概要

映像制作方法と映像メディア設計の方法論を学び、地域に点在する価値を掘り起こし表現する。

#### ■ キーワード

美術, 映像, 環境, 地域貢献

#### ■ 先行科目

#### ■ 関連科目

#### ■ 到達目標

映像制作の基本を理解する。映像機器や編集機器の扱いが出来るようになる。

#### ■ 授業の計画

- 1.オリエンテーション:映像メディア表現による射程と、授業内容のガイドライン
- 2.マスメディアと映像:マスメディアの役割と映像による情報環境の概観を確認する
- 3.映像ヴィジュアルコミュニケーション:映像言語による表現を参考に映像デザインの方法論の1つを確認する
- 4.映像コンテキスト:映像に登場する人物や、場面をもとに社会様相などを読み解き、映像デザインの手法を確かめる。
- 5.映像表現技法:映像言語による修辞技法を学び、映像によるコミュニケーション方法を考える。
- 6.映像デザイン表現(フィールドワーク1):映像によるリソースの收拾の方法論
- 7.映像デザイン表現(フィールドワーク2):
- 8.映像デザイン表現(編集):映像をコード化しコミュニケーションの構造を確認する
- 9.映像デザイン表現(編集):映像コミュニケーションの精緻化を考える
- 10.映像デザイン表現(CM・PV):レビュー
- 11.映像とメディア社会とのつながり:SNSと統合される映像の可能性
- 12.映像による思考デザインの方法論
- 13.映像メディアとテクノロジー:最新のガジェットなどの動向をもとに触覚的知覚と映像との関係を考える
- 14.拡張する映像メディアと表現:映像表現のこれまでと、今後の映像デザイン表現について考察する

教科書

参考書

教科書・参考書に関する補足情報

教科書は特に使用しないが、参考書等は授業時に随時紹介する。

Jeff Skoll「My Journey Movies that matter」『TED.com』

[http://www.ted.com/talks/jeff\\_skoll\\_makes\\_movies\\_that\\_make\\_change](http://www.ted.com/talks/jeff_skoll_makes_movies_that_make_change)

Ben Cameron「The True Power of the Performing Arts」『TED.com』[http://www.ted.com/talks/ben\\_cameron\\_tedxyyc](http://www.ted.com/talks/ben_cameron_tedxyyc)

Stefan Sagmeister「Happiness by design」『TED.com』

[http://www.ted.com/talks/stefan\\_sagmeister\\_shares\\_happy\\_design](http://www.ted.com/talks/stefan_sagmeister_shares_happy_design)

Stefan Sagmeister「Designing with slogans」『TED.com』

[http://www.ted.com/talks/stefan\\_sagmeister\\_on\\_what\\_he\\_has\\_learned](http://www.ted.com/talks/stefan_sagmeister_on_what_he_has_learned)

成績評価方法・基準

授業時の課題制作70%、レポートなど30% 評価軸は授業時に紹介する。

再試験の有無

なし

受講者へのメッセージ

映像制作を行なうために一眼や、コンデジ。モバイル端末などを活用したい、よって映像撮影ができる機材を所有していることが望ましい

WEBページ

学生用連絡先

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

学生開示用メールアドレス

匿名アクセスではこの情報は閲覧できません。

オフィスアワー

金曜日1.2限

オンラインオフィスアワー

実務経験

備考

自主学習(予習・復習)のアドバイス

日常から映像撮影し、映像による思考整理すること身につける

準備学修に必要な時間の目安等

大学の講義は、1単位を修得するにあたり、教員が行う授業時間に加え、学生が予習や復習などの授業時間外に学修する時間と合わせて、45時間の学修を必要とします。



## 【科目名】 情報社会論

科目番号	13321	担当教員名	松村 豊大	単位	2単位
科目群	専門	必修・選択	選択	開講期	後期
				対象年次	2年
<b>授業概要</b>					
<p>経済産業省情報処理技術者国家試験「ITパスポート」の出題範囲を意識しつつ、情報化社会を生き抜くために必要な知識を吸収する。</p> <p>講義は、「大学卒業資格を有する社会人として常識」となるIT関連の知識・用語について解説しながら、コンピュータの世界を通じて社会事象をみる。</p> <p>前期の情報処理の科目に引き続いて行われる内容である</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>①知識：経済産業省情報処理技術者国家試験「ITパスポート」の出題範囲(ストラテジ・マネジメント)の知識が習得できる。</p> <p>②態度 知識を獲得し現代のIT社会の正しい行動をとる。</p> <p>③技能 授業時間外学習をおこなうことで、国家試験に合格できる。</p> <p>④思考判断 IT社会においてさまざまな問題に対応したときに正しい判断ができる</p>					
<b>授業計画</b>		<b>授業形態</b>		<b>授業時間外学習</b>	
【1】	情報処理技術者試験制度と大学卒業者のIT資格	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題		特にない	
【2】	企業と法務 企業活動	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題		<p>予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。</p> <p>復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)</p>	
【3】	企業関係法	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題		<p>予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。</p> <p>復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)</p>	

【4】	経営戦略マネジメント	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【5】	同	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【6】	ビジネスインダストリ	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【7】	同	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【8】	システム戦略	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く。小テストの準備とし

			て、授業に出てきた用語を確認する。(所要時間90分)
【9】	同	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【10】	システム企画	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【11】	同	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【12】	開発技術	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く(所要時間90分)
【13】	サービスマネジメント	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定して



			いる問題集の該当箇所を各自で解く。過去問題を演習する(所要時間90分)
【14】	プロジェクトマネジメント	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く。過去問題を演習する(所要時間90分)
【15】	同	【講義】用語・概念の説明と例題の解説、【問題演習】テキスト掲載問題	予習：教科書として指定されている本の該当箇所に目を通し、既知の事項と未知の事項を区分し、未知の事項を講義を聴く重点項目として意識し、教科書にしるしをつけるなどする。 復習：教科書として指定している問題集の該当箇所を各自で解く。予想問題を演習し、単位認定試験に備える。(所要時間90分)
【16】	期末試験		持ち込み不可、マークシート方式で実施。40問

### 評価方法

期末試験（多肢選択式：教科書に掲載されている問題から出題する40問）80%と小テストなどの平常点20%  
フィードバック 自己採点による

### 教科書

よくわかるマスターITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 FOM出版

### 参考図書

### 備考

ITパスポート試験の受験にあたっては、各自で目標を定めて準備してください。  
徳島県内では、情報系の専門学校でIBT方式（パソコンの画面で解答を選択する方式）で実施されています。  
学習量は人によりますが、授業内容を復習して、各自で過去問題や予想問題に取り組み、3日程度の受験勉強で合格水準に達するとの事です（これまで、学年で4～5人の合格者を出しています）  
オフィスアワーは木曜日5時限目23901研究室にて開きます。  
学習時間として想定される標準的時間は授業時間を含め90時間である。毎回の学習時間は学習進度によってことなる。

科目ナンバー 8 ACS241L 科目コード別途

「実務経験 1983年～2002年 国土交通省（運輸省）職員」





## 【科目名】 会計学Ⅱ

科目番号	12790	担当教員名	齋藤 敦	単位	2単位
科目群	専門	必修・選択	選択	開講期	後期
				対象年次	2年
<b>授業概要</b>					
<p>この科目は会計学ベーシックⅠを念頭におき、それとの関わりの中で会計上の諸課題、諸問題を説明することにする。</p> <p>授業内容の説明の後、毎回アクティブラーニングとして簿記検定試験2級の商業簿記の問題練習をしてもらう。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>(1) 財務諸表（貸借対照表と損益計算書）等を理解する。(2) 簿記の処理の仕方について関心を持つ。</p> <p>(3) その上で、簿記検定試験2級の商業簿記の内容に関して理解する。(4) 複式簿記の処理の思考方法を理解する。</p>					
<b>授業計画</b>		<b>授業形態</b>		<b>授業時間外学習</b>	
【1】	特殊商品売買取引を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）		復習として他の特殊商品売買取引の問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（有形固定資産勘定）を概観する。	
【2】	有形固定資産勘定を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）		復習として他の有形固定資産勘定の問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（無形固定資産勘定）を概観する。	
【3】	無形固定資産勘定を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）		復習として他の無形固定資産勘定の問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（営業外費用）を概観する。	
【4】	営業外費用を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）		復習として他の営業外費用に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（営業外収益）を概観する。	
【5】	営業外収益を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）		復習として他の営業外収益に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（株式会社の資本）を概観する。	
【6】	株式会社の資本について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）		復習として他の株式会社の資本に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その	

			後、次回の内容（会社の合併）を概観する。
【7】	会社の合併について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の会社の合併に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（法人税）を概観する。
【8】	法人税について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の法人税に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（消費税）を概観する。
【9】	消費税について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の消費税に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（決算整理）を概観する。
【10】	決算整理について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の決算整理に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（決算集合勘定）を概観する。
【11】	決算集合勘定を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の決算集合勘定に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（本支店間取引）を概観する。
【12】	本支店間取引を理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の本支店間取引に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（合併財務諸表）を概観する。
【13】	合併財務諸表について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の合併財務諸表に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（仕訳帳の分割）を概観する。
【14】	仕訳帳の分割について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の仕訳帳の分割に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。その後、次回の内容（伝票式会計）を概観する。
【15】	伝票式会計について理解する。	講義と小テスト（一斉講義方式と問題の実習）	復習として他の伝票式会計に関する問題練習をする（復習時間60分程度）。

### 評価方法

毎回の小テストの合算評価（100%）  
小テストの解答を次回の授業で返却する

**教科書**

おって指示する

**参考図書**

おって指示する

**備考**

オフィスアワーは月曜日午後（23号館10階齋藤研究室）

実務経験はなし

科目ナンバリング：8AMA214L

